慶應義塾大学学術情報リポジトリ Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	曲面形状における「複雑さ」の定量化法とそれを用いた形状生成システムの構築						
Sub Title	Development of quantification method of surface "complexity" and shape generation system						
Author	加藤, 健郎(Kato, Takeo)						
Publisher	慶應義塾大学						
Publication year	2018						
Jtitle JaLC DOI Abstract	 学事振興資金研究成果実績報告書 (2017.) 3DCADや3Dプリンターの普及と性能向上に伴い、近年の工業製品のスタイリング(形状)は多様化している。このような形状を効率的に発想するためには、 ヒトよりもコンピュータによる自動生成が有効であり、 コンピュータが自動的にデザインを行うジェネラティブデザインが注目されている。しかし、その主たる評価対象は力学評価であり、 同評価に基づいて形状を生成する位相最適化法などを応用した研究が多くされているものの、 形状の変圧評価に関する研究は殆どなされていない。本研究では、 ヒトの形状認知において重要な巨視的形状特徴の一つである「複雑さ」に着目し、 曲面形状の「複雑さ」の定量化法を構築した。 まず、曲線の一部が見為どなされていない。本研究では、 ヒトの形状認知において重要な巨視的形状特徴の一つである「複雑さ」に着目し、 曲面形状で「複雑さ」の定量化法を構築した。 まず、曲線の一部がり具合を表す曲率と、 事象の発生確率に基づく複雑さの指標である情報エントロピーを用いて、 曲面形状で「複雑さ」の指標を提案した。具体的には、 曲面形状で「右鞭を提案した」のたがウス曲率の変化をマルコフ過程として捉え、その情報エントロピー(ガウス曲率エントロピー)を「複雑さ」の指標として捉え、その情報エントロピー(ガウス曲率エントロピー)を「複雑さ」の指標として捉え、その情報エントロピー(ガウス曲率とた) 最後に、提案手法の変の三角形に分割し、各項点とその隣接する頂含を用いてガウス曲率とその生ま 一般後に、読を済しました。 最後に、提案手法の変当するために、40名の被験者による官能評価実験を行い、 官能評価値と提案手法により算出された「複雑さ」の指標の相関関係を確認した。 今後は同法を応用した自動形状生成システム構築を行う予定であり、コンピュータが意度正面を含含たデザインを行う新能な動きの、コンシビュータが含意面をありた。 Due to the development of Al technology in recent years, the styling of industrial products has been diversified. Compared to humans (designers), computers can create these shapes efficiently. Therefore, generative design, which is a technique for automatically generating design lease by computers, has attracted attention. However, the research about generative design has focused only on mechanical characteristic (e.g., topology optimization) and is required to evaluate aesthet characteristics. This study focuses on "complexity" that is one of the macroscopic shape features affecting human's visual cognition and proposes a "complexity" valuation method. Finally, ta confirm the applicability of the proposed index, in which the surface is divide using surface transition probabilities between the valuate avaluate and called Gaussian curvature and firmation entropy. Second, the approximate calculation fr						
Notes							
Genre	Research Paper						
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=2017000001-20170259						

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって 保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

2017 年度 学事振興資金(個人研究)研究成果実績報告書

研究代表者	所属	理工学部	職名	専任講師		300 (A) ∓I			
	氏名	加藤 健郎	氏名(英語)	ΤΑΚΕΟ ΚΑΤΟ	→補助額		(A) +H		
研究課題(日本語)									
曲面形状における「複雑さ」の定量化法とそれを用いた形状生成システムの構築									
研究課題(英訳)									
Development of Quantification Method of Surface "Complexity" and Shape Generation System									
3DCAD や 3D プリンターの普及と性能向上に伴い, 近年の工業製品のスタイリング(形状)は多様化している. このような形状を効率 的に発想するためには, ヒトよりもコンピュータによる自動生成が有効であり, コンピュータが自動的にデザインを行うジェネラティブデ ザインが注目されている. しかし, その主たる評価対象は力学評価であり, 同評価に基づいて形状を生成する位相最適化法などを応 用した研究が多くされているものの, 形状の意匠評価に関する研究は殆どなされていない. 本研究では, ヒトの形状認知において重要 な巨視的形状特徴の一つである「複雑さ」に着目し, 曲面形状の「複雑さ」の定量化法を構築した. まず, 曲線の曲がり具合を表す曲率と, 事象の発生確率に基づく複雑さの指標である情報エントロピーを用いて, 曲面形状の「複雑 さ」の指標を提案した. 具体的には, 曲面上の任意の点とその近傍の点から算出したガウス曲率の変化をマルコフ過程として捉え, そ の情報エントロピー(ガウス曲率エントロピー)を「複雑さ」の指標とした. 次に, 同指標を近似的に算出するために, 有限要素法のメッシュ分割に用いられるアドバンシングフロント法により, 曲面形状を任意 の数の三角形に分割し, 各頂点とその隣接する頂点を用いてガウス曲率とその生起・遷移確率を算出する手法を提案した. 最後に, 提案手法の妥当性を確認するために, 40 名の被験者による官能評価実験を行い, 官能評価値と提案手法により算出された 「複雑さ」の指標の相関関係を確認した. 今後は同法を応用した自動形状生成システム構築を行う予定であり, コンピュータが意匠面を含めたデザインを行う新たな分野であ るジェネラティブデザインの発展に寄与する予定である. なお, 得られた研究成果は, 国際会議 1 件, 国内会議 3 件において報告して おり, 公刊論文 1 件を投稿中である.									
2.研究成果実績の概要(英訳)									
Due to the development of AI technology in recent years, the styling of industrial products has been diversified. Compared to humans									
(designers), computers can create these shapes efficiently. Therefore, generative design, which is a technique for automatically generating design ideas by computers, has attracted attention. However, the research about generative design has focused only on mechanical characteristic (e.g., topology optimization) and is required to evaluate aesthetic characteristics. This study focuses on "complexity" that is one of the macroscopic shape features affecting human's visual cognition and proposes a "complexity" evaluation method. First, an evaluation index for "complexity" was proposed using Gaussian curvature and information entropy. The information entropy is calculated on the basis of the Markov model constructed using the variation of the Gaussian curvatures calculated at each									
		d called Gaussian curvature er				acou			
Second, the approximate calculation method of the proposed index, in which the surface is divided using surface triangulation method (advancing front method) and the Gaussian curvatures and their occurrence and transition probabilities between the vertices of the triangles are calculated, was proposed.									
Finally, to confirm the applicability of the proposed method, the sensory evaluation experiment made on 40 participants was done.									
And, the correlation between the evaluated values and calculated indices was confirmed. The future tasks include to construct the shape generating system based on the proposed method, which contributes to the development of the research area of generative design. These research findings were reported in one original article (under reviewing) and at some conferences (one international and three domestic conferences).									
発表 (著者・		発表課題名 (著書名・演題)			学術誌系 (著書発行年月	行年 ・講	月 演年月)		
松本大志,加 由幸		曲面形状における「複雑さ」の		回日本デザイン学会春季研	2017 年 6 月		~ • • • • •		
Taishi Matsu Kato, Yoshiyuk		Quantitative Represer Method of Complexity on Dimensional Shape		•	2017 年 9 月				
松本大志,加藤	泰健郎	ガウス曲率エントロピーを用い 面形状における「複雑さ」の定		回日本感性工学会春季大会	2018 年 3 月				